

障害者の勤務先選びで

大切だということ

J.A

障害者が就職先を選ぶ場合、「自分のどの能力が企業に役立つか」を見極めて、根気強く応募先を決める必要があることを、私は経験から学びました。

オープンで行う障害者雇用の業務は、一般枠の業務に比べて「簡単」かもしれません。

しかし、本人が苦手な業務で長く勤続できるほど、会社組織は甘くないことも事実だろうと考えます。

私は、最初の障害者雇用で入った会社では、求人票で業務が私に向いている「〇〇の仕事」と決まっていた。それが、入社が決定し7年ほど勤続できた要因でした。

「〇〇の仕事」は、職場の都合で無くなってしまいましたが、その後新しい上司に同じ能力を必要とする別の業務を与えていただき、一生ものの経験につながりました。得意な業務が多く回ってくるようにもなりました。

しかし、2つ目の障害者雇用で入った会社では、「ジェネラリストであること」を求められました。与えられる業務は「私の持つ能力」で判断されずに、向いていない業務が回ってきました。例えば、別チームの納期が近づくと、苦手な業務であっても応援に回されました。障害特性上、柔軟に働くことが苦手なこともあり、ほとんど得意な能力を発揮することがなくメンタル不調に陥り、3年ほどで退職しました。

皆さんがこれから会社を探すとき「自分のどの能力が企業に役立つか」を見極めないと、こういう結果になってしまうかもしれません。

自分の能力を見極め、企業と合意して入社した場合と、雲泥の差がつかます。